

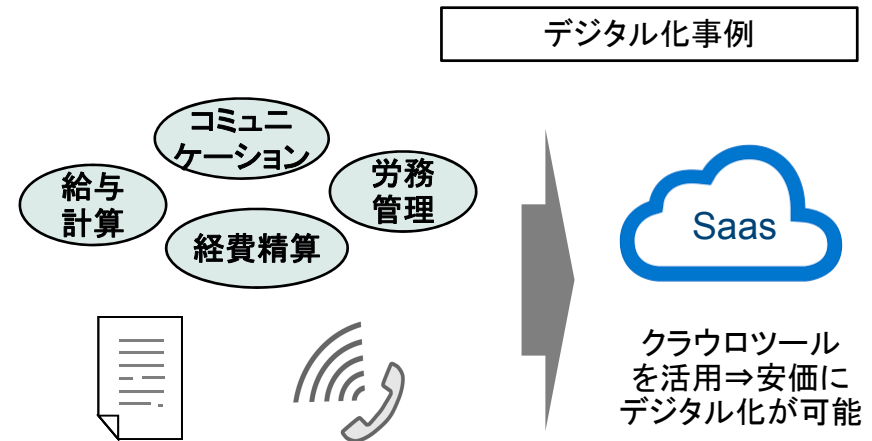
分析フェーズ: 打ち手化—テクノロジーの最大活用(デジタル化)

“最新テクノロジーの最大活用”を主軸に、プロセスを大幅に見直します。特に昨今では、SaaS(クラウドツール)やRPA等の最新技術活用により自動化対象の拡張が可能です

テクノロジーの最大活用

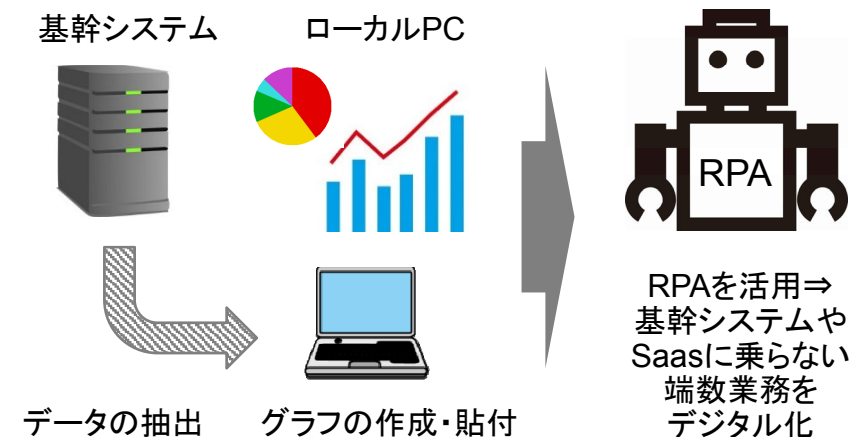
クラウド・RPA・AI活用

- 間接業務は、大規模なシステム化が投資対効果に見合わない「端数業務」が多い
- SaaS(クラウドツール)やRPA(業務ロボット)・AI等の活用により自動化対象を大幅に拡張可能



周辺業務の整理・使いこなし

- テクノロジーは導入だけでは効果が出ない
- 周辺業務の整理・再構築・標準化を含めた使いこなしが重要



分析フェーズ: 打ち手化ー廃止・簡素化(やりすぎの解消)

テクノロジー活用と併せ、“やりすぎ”の解消余地を探ります。**ゼロベース視点**や**ベンチマーキング**を通じ、**経営・リーダー陣主導で廃止・簡素化を決定**することが成功のポイントです

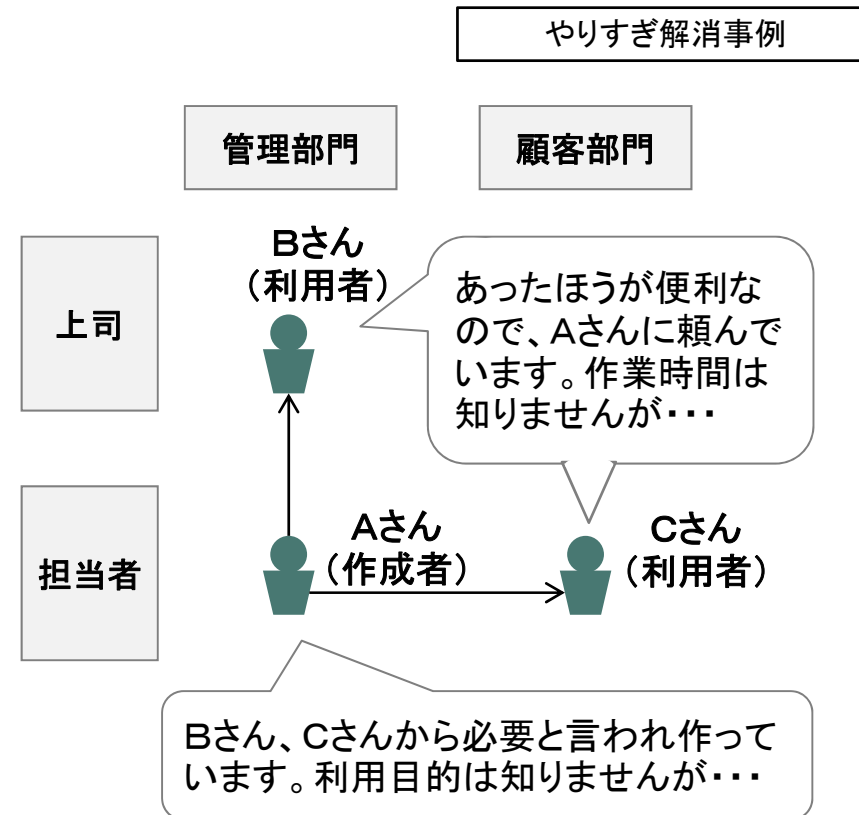
ゼロベース 視点

- “生み出さない”ことは、最大の効率化策
- 特に“昔から作っている”や“作るヒト・使うヒトが違う”モノは要チェック
⇒ゼロベース視点で解消余地を洗い出す

ベンチマーク ＋ トップの 意思決定

- 社内外の類似例(ベストプラクティス)等との比較は有効なモノサシ
- 自部門ではやめづらい
⇒経営・リーダー陣が廃止・簡素化を決めることが重要

やりすぎ解消事例



- 上記例は、Aさんが月に4日間かけて毎月作成
⇒Aさんの仕事の1-2割を占めていた
- 費用対効果を考え、大幅に簡素化

分析フェーズ: 打ち手化—体制の見直し・外注化

終身雇用主体の日本企業では“**人員固定化**”や“**属人化**”による弊害が生じがちです。昨今では、“**リモートワーク**”や“**外部人材のシェアリング**”等の**新しい働き方**導入も有効です

固定化の
解消
・
リモート
ワーク等

- 仕事量の変動する場合、稼働時間とのギャップが生じる
- 変動化やマルチタスク化等を通じ、ギャップを解消する

属人化の
解消
・
外部人材
シェアリング
等

- 仕事は“できる人”に集まりがち。結果、様々な難易度の仕事が“できる人”に集中
- “仕事”単位で“適材適所”を図り、ギャップを解消

体制見直し事例

派遣・パート活用により、仕事量の変動にあわせた人員配置を実現

